

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

ミンダナオ子ども図書館の使命

愛を必要としている不幸な子どもたちに仕え、互いに愛し合うこと。悲しみの中にある子たちに喜びを、傷ついた心に癒やしをあたえ、互いの文化を分かちあい、一つの家族として生きること。そして夢をかなえて平和な世界を作ること。



ミンダナオ子ども図書館の学生たち

親鸞さま なぜお念仏なの？

ひとり、人生という山に生き迷って進めなくなっていた時に、ある先生から「お念仏を申してみませんか」と勧められた。

でも、南無阿弥陀仏がどういう意味をもっている言葉なのか？

「なむあみだぶつ なむあみだぶつ」と声に出して称えるって、なぜ、そんなことをしなければならぬのか？ わからなかった。

お念仏申している人を、今までに見たことがなかったし、

何か古くさい過去の教えのように感じられた。

その後、出遇ったもう一人の先生から、再度お念仏の勧めをいただいた。

あなたの生き方は、高嶺に造花を咲かそうとする生き方だ。

それはどんなに美しくても造花ですよ。

自然の花は、しっかりと大地に根を下ろしてこそ花開いている。

お念仏申すところから、新しい自然な生活が開かれてきますよ。

南無仏の御名なかりせば現そ身の

ただ生き生きすることあるべしや

その一言一言は、私の濁いた命にしみ入って、それから自然に掌が合わされ、思いがけず「なんまんだぶつ なんまんだぶつ」とお念仏申される時が恵まれた。お念仏は、私の生きている身が歡ぶ教えだった。その時から、口に声に出して「なんまんだぶつ」と申しつつ生きることが始まった。同時に「なぜ、お念仏なのか」と問う聞法の生活が始まりました。

春季彼岸会法話

人間、何のために 生きるのか？

川村妙慶先生

天上天下唯我独尊

お釈迦さまは約二千五百年前、インド北部のカピラ城に釈迦族の王子として誕生されました。お釈迦さまは生まれてすぐ七歩、歩き「天上天下唯我独尊」と獅子吼されたそうです。私たちは、自分を中心に、上なのか下なのかと、比べる「慢」の心をもっています。自分の方が上であれば高慢になり、下だとなれば卑下慢になります。この「慢」の心で人間は悩むのだと、お釈迦さまは教えて下さいました。誰とも比べる事のない私を尊びましょう、というのが「天上天下唯我独尊」の意味です。

散るサクラから学ぶ

桜は、十日間開花した状態の時にだけが桜でしょうか。そうでは無いのです。三六五日、大地に根を下ろし、寒い冬は耐えています。しっかりと養分を蓄え時期が来たら花が咲きます。そしてまた条件が整えば花吹雪となつてはかなく散っていきます。諸行無常ですね。それに学ぶんです。桜のすがたは、良い時も悪い時も、人生の裏も表も、

その両方とも引き受けていくあたためたであつてほしい、とのメッセージを届けて下さっているのです。

星野弘弘さんの詩

星野さんは体育の先生になり、皆から「すごい」とほめられていました。ところが、事故にあい寝たきりになってしまい、もう生きていく意味がないと、ポーツと景色を見ていた時、「そうだ。それぞれの生き方がある」と気づき、手足がだめでも口は動く、口で何かできないかと、筆を口にくわえて絵や詩を書き始めました。その頃の詩があります。

いのちが一番大切だと思つていたころ 生きるのが苦しかった
いのちより大切なものがあると知つた日 生きてるのが嬉しかった
今まで、寝たつきりの身体を認めることができなかったのが、「心臓が動いている、今ここに生きています」と気づいた時、星野さんは生きる意欲をもたれたのです。

期待と希望の違い

「期待」とは、光り輝く世界を夢見ていくことです。私は結婚して12年目なんです。結婚にあつて、専修学院の恩師の先生にはなむけの言葉をお願いしたら、「期待するな」と書いてくれました。その時は「なんで」と思いましたが、

今は身にしみますね。

「希望」とは、たとえつらい事があつても、それでも生きたいと思える意欲のことです。

清沢満之先生は、過去に対するあきらめの主義、現在に対する安住主義、未来に対する奮励主義、ということをお説きになりました。

「あきらめ主義」とは受け入れていく心です。宮城顛先生は「お念仏するということは領収書を書く



ことですよ」とおっしゃいました。お釈迦さまは、「あなたはあなたになれ」「今あなたがすることが大切だ」と教えて下さっています。

田口弘弘さんの回心

法友の田口弘弘さんのことをお話しさせていただけます。田口さんは弱視で生まれ、そのことでいじめられたそうです。28才の時、まもなく失明すると宣告されました。生きることに絶望し、死ぬことがかり考えていたら、真宗大谷派の僧侶に「『死ぬ、死ぬ』言わんで

も、人間はいつか必ず死ぬ。どう

せ死ぬんなら、親鸞聖人の教えを聞いてから死になさい」と言われたそうです。それで、大谷専修学院に入学しました。そこで長川一雄先生に「もうすぐ目が見えなくなりません。僕の人生は最悪です」と自分の気持ちを話したら、

先生から「『最悪だ』と言ってるお前の考え方が最悪じゃー」と一喝されたそうです。「目が見えなくなると、不自由で苦勞もしよう

が、それは不幸とは違う。おまえの心臓や足の裏が『死にたい』と言ってるか聞いてみ」と言われ、「自我が苦しみをつくっていたんだ」とはじめて気づいたそうです。このとき田口さんは信心をいだいたんです。それを回心と言います。それから「失明しても、手がある、足がある、この身体で命

いっばい生きていけばいいんだ」とよみがえつたのです。

仏法を伝える使命

田口さんは卒業後まもなく失明し、東京で「坊主バー」を開いておりました。そこで、お客さんの悩み相談を受けたり、お話が上手だったので、短い法話をされていきました。ご両親が亡くなられた後は一人暮らしだったので、安否確認を兼ねて毎日メール交換をしていましたが、昨年のお盆に突然倒

れ、お浄土に帰られました。

葬儀に駆けつけたら、田口さんと親しくされていた住職さんが「田口はな、57年の人生を生き切つたんだよ。これが彼の寿命なんだ」と言つて下さいました。また葬儀

に来てた友人から、田口さんが「今の川村妙慶を作つたのは、ひきこもりのお兄さんだよ」と言つていたことを教えられました。私

には、兄がひきこもりにならなかつたら、寺を継ぐことを拒否しなかつたら、私はアナウンサーになれてたのに、という恨みみたいなのが

あつたんです。でもよくよく考えてみたら、兄に背中をおされて、教えるに出会わせていただいていたんです。

田口さんは「どんなことがあつても仏法を伝えていこうね、それが僕たちの使命なんだね」と教えてくれました。

聞き書き担当者 感想)

ひきこもりの内容が緊急避難だと知りませんでした。かつて息子(次男)も数年間ひきこもりになりましたが、いろんな方々のご縁をいただき、おかげさまで、今は家を出て自分の人生を歩いています。私は今回、妙慶先生より、小事にとらわれ、大事を忘れていた自分を教えていただきました。

ミンダナオ子ども図書館

フィリッピンのミンダナオ島では長いこと内戦が続いていて、親や住むところをなくした子供たちがいっぱいいます。またアメリカ資本のバナナのプランテーションに土地を奪われ、貧困のため学校に行けない子どもたちもたくさんいます。そうした子どもたちを集めて学業支援をしているのが「ミンダナオ子ども図書館」というNPO法人です。

その代表の松居友さんご夫妻と12名の学生が夏休みを利用して日本公演にやってきました。勝福寺にも、宇佐組の解放研修もかねて、4月25日、訪問していただきました。



第一部・松居友さん講演
「ミンダナオの子ども、日本の子どもも生きる力って何だ

ろう」と題して松居友さんが、テレビ放映されたビデオ（なぜここに日本人―マノボ族の酋長になった日本人）を見ながら、お話をしてくれました。友さんは子どもたちの父親のようですし、子どもたちの人なつつこさ、キラキラした生活に感動しました。

民族衣装は、あでやかできらびやか。伝統の歌と踊りはテンポよく、竹を使っ



た踊りには足がはさまれないようにとヒヤヒヤ、楽しい一時を過ごしました。



第二部：ミンダナオの歌と踊り

第三部 交流会

夜はカレー（豚肉系は一切ダメ）とサラダを中心にした料理。ミンダナオの子供たちは、魚と鶏肉の料理を作ってくれました。
先住民民族、イスラム、クリスチャンと宗教は違っても大変仲の良い子どもたちです。



お互いの宗教を尊重しあっている姿が垣間見えました。
ご協力有難うございました
子ども図書館に送る、古着・靴・鞆・おもちゃ・ぬいぐるみ等も、たくさん寄付して下さい。勝福寺の一部屋が品物で埋まり、通れなくなるほどでした。（大きな段ボールで12個にもなりました）これを機会にミンダナオの子ども図書館に寄り添っていきたく思っています。これからは、皆さま

皆さんの家には立派なお内仏がありますね。ご本尊の阿弥陀仏に毎朝お仏飯をあげ、お花の水を替え、お灯りをつけ、お線香を焚いてお参りをする。昔はお参りが済まないといふ飯を

真宗門徒の豆知識 お内仏って何だろう？

お内仏について少し書いてみます。
お内仏は阿弥陀仏の浄土を表現（荘厳）しています。「往生」とは、死ぬことのように思われたりしますが、

浄土往生を願う生活を「なさい」と、私達はお内仏から呼びかけられているのです。お内仏には、阿弥陀仏の浄土のご本尊として阿弥陀仏のお像や、「南無阿弥陀仏」のお軸を安置します。そうしてお仏飯やお水、お花やお線香、灯りを仏様へのお供養として用意しますが、実はこれらによって阿弥陀仏の浄土の功德をあらわしているのです。
（続く）
*次回は「お仏飯」「お灯り」「お香」「お花」について考えてみます。（純子）



図書館です。スマートフォンで見ることが出来ます。ミンダナオ子ども図書館のQRコードがホームページにあります。

まのご協力をお願いいたします。なお会場でいただいたカンパは三四、六〇〇円ありました。宇佐組と勝福寺からの御礼と合わせて、ミンダナオ子ども図書館に贈呈しました。

ご門徒さん こんにちは！

第十二回

今回は四日市の小菊町にお住まいの堂本光男さんをお訪ねしました。事前に住職から堂本さんは、卑弥呼の格好をして全国のいろんなマラソン大会に出て、宇佐市のPRをしていることが新聞に採り上げられたことのある方だと聞かされており、堂本さんとはどんな人なのか、とても興味がありません。

堂本光男さんは、大正15年9月10日に北九州で生まれ、現在92歳です。北九州でクリーニング業をしていた父母の6人兄弟の長男として生まれました。6人のうち2人は幼少期に亡くなり、育ち上がったのは堂本さんと3人の妹さんの4人ですが、今でも全員、健在だそうです。

奥さんは三つ違いの89歳でかくしやくとしておられます。三人の女の子どもさんに恵まれて、みんなすくすく育った自慢の子どもさん達ばかりで

す。子育ての秘訣を聞くと「ほめて育てる。自分に自信を持たせること。そして、例えば夫婦喧嘩などしていても、子どもの前では決して仲が悪い姿は見せないことだ」ということです。

小学校三年生の時、父の体調の加減で、母の出身地である四日市に帰ってきました。ちなみに父は中津市出身だということです。

18歳の時に志願して徴兵検査を受け、2年早く希望した陸軍の自動車部隊に入隊しました。任地は熊本で終戦までの1年間勤務しました。

愛は惜しみなく 堂本光男 (四日市小菊町)

終戦後、両親が住んでいる四日市に復員し、父のクリーニング業を手伝っていました。当時、四日市にも進駐軍が駐留しており、宿舎に配達に行くうちに、生来の人なつっこさで米兵にも可愛がられたそうです。その米兵から日本の民主化は教育から始まるという

ことを聞き、自分も教員になろうと思いつき、教員を養成するために設立された大分青年師範学校に入学しました。昭和25年3月に学校を卒業し、最初に勤務した学校は佐伯市鶴見にあった中浦小学校と中学校です。そこから35年間の教師生活が始まりました。教師時代、得意だった美術教育では宇佐市の美術教育のリーダーとしてみんなのお世話をしたそうです。退職後は

の姿勢は変わりませんでした。退職後は、堂本さんの退職を待っていたかのように、いろんな団体から声がかかったそうです。最初は宇佐市の観光協会に入り、14年間もの長きに亘って観光振興活動に従事しました。その間の活動でよく知られているのが、全国のマラソン大会など、いろん



堂本さんのすごいところは文化活動だけでなく、スポーツの分野でも活躍していることです。特にマラソンでは、平成26年に豊後高田ふれあいマラソンで連続30回出場賞を受けたこと、通算でマラソン大会に317回も出場していることです。

現在は、夫婦二人の生活を楽しみながら、奥さんが作ってくれる食事を前に、自分が食を摂ることは生き物の命を奪うことになる。その相手に「すまんなあ、というお詫びの心」と「感謝の心」、「恩返し」の心、「奉仕の心」で頂いているとのこと。そして仏壇の前に座り、お経をあげながら仏様との会話を楽しまれているそうです。

その堂本さんから私達に伝えたい言葉として「愛は惜しみなく」という言葉をいただきました。家族はもちろんです。生きていくもの全てに、等しく愛情を注いできた堂本さんならではの言葉だと思います。どうぞこれからも元気で過ごされたいと、私達にその貴重な経験を伝えてください。

(文責 渡辺 重昭)

「勝福寺の今後のあり方等について」アンケート集計結果

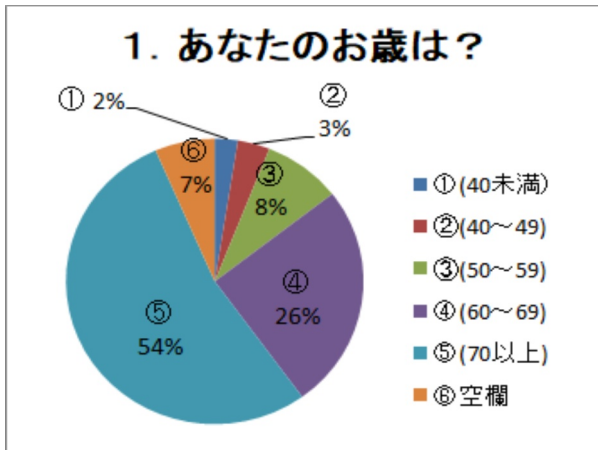
皆さんに書いていただいたアンケートを「勝福寺・親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会」が中心になって分析し、以下のようにまとめました。ご一読下さい。

＜全般的なまとめ＞

配布世帯190に対して回収世帯150（回収枚数209）で、世帯単位の回収率は、79%でした。アンケートの個別項目の集計状況は、グラフに掲げているとおりです。

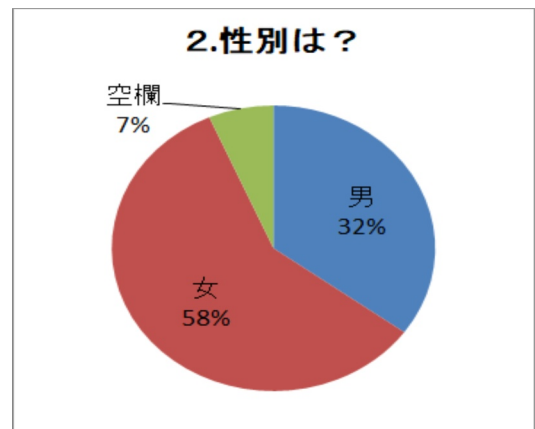
記述式の質問についても多数の回答が寄せられていますが、紙面の関係ですべてを記載することができませんので、グラフの後に整理要約して記載しています。

1. あなたのお歳は？



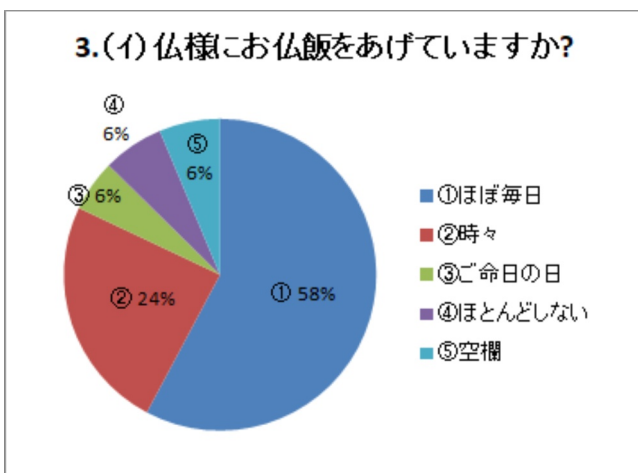
回答して下さった方の80%が60歳以上で、60歳未満は13%でした。社会の平均以上に高齢化率が高いのは、若い人の多くはお仏壇（お内仏）のある家を出て、お寺に繋がりのあるのはお年寄りの世帯となってしまっていることの現れのようにです。

2. 性別は？



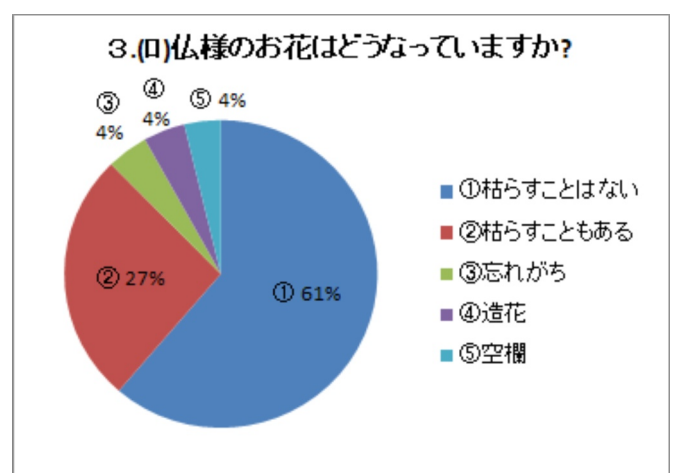
女性の数が男性の約2倍となっています。これは女性の平均寿命が約6歳長いことと、一般的に、結婚時に女性の方が年下であることなどが理由として考えられます。また、仏さまのことは「奥さん任せ」になっている家庭もあるようで、そうしたことも関係しているかあもしれません。

3.(イ) 仏様にお仏飯をあげていますか？



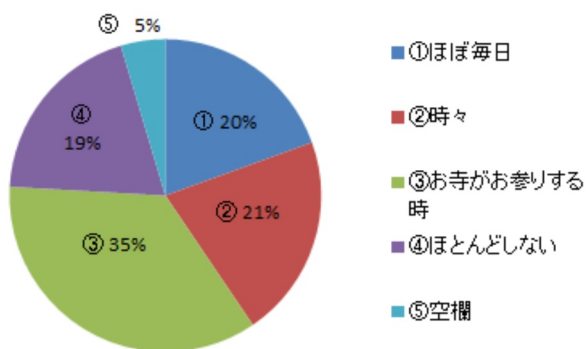
ほぼ毎日あげている人が約6割もいるというのは嬉しい驚きでした。現在は、ご飯も毎日炊かない家も増えているのではないかと思います。その中でほぼ毎日あげているということは、お内仏を大事にされている人が多いという事なのでしょう。

3.(ロ) 仏様のお花はどうなっていますか？



お花も多くの人が枯らすことなくあげられていました。忙しい日々、ついうっかりということもありますが、お内仏は浄土の世界をあらわしたものです。お花は生き生きとした状態を保つよう心がけたいですね。

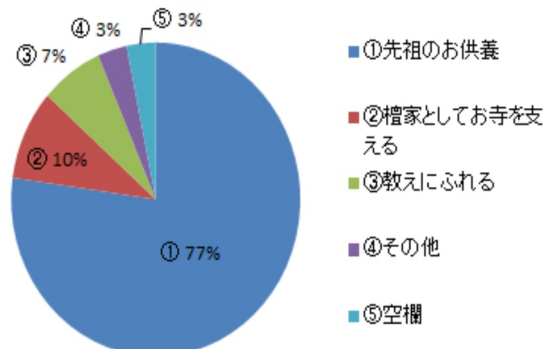
3. (ハ)ご仏前でお経をあげることがありますか？



「ほぼ毎日」お経をあげておられる方が20分もおられたことにビックリしました。また「時々」と「お寺がお参りする時」を併せると76%、4分の3の人が、ご仏前に手を合わせてお勤めをされています。ありがたいですね。

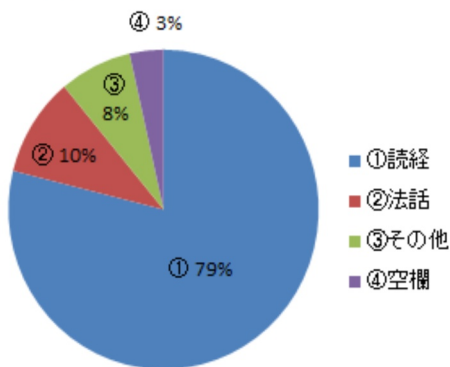
仏さまに掌を合わすだけでなく、お経をあげるという、そうしたゆったりとした時間をもつことが人生を深く豊にしてくださることでしょう。

4.(イ)月忌参りの意味をどう考えますか？



月忌参りですから先祖のお供養が第一になるのは当然でしょうね。それから10分の方が、そのお布施でお寺を支えているとお考え下さっていました。また7分の方ですが、教えにふれることも月忌参りの意味と考えられています。複数回答にしていたら、②や③の回答がもっとあったかもしれません。お月忌には、①②③の三つの意味が含まれていると思います。

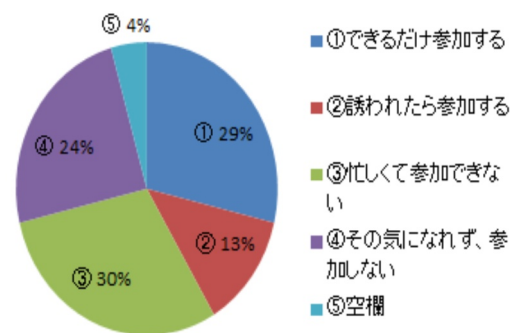
4. (ロ)どういう形が望ましいですか？



前の回答と関連しており、先祖の供養のために読経を、教えにふれるために法話を望んでいると思われます。月に一度、お寺さんと対面できる機会ですから、世間のこと、自分のこと、家族のこと、時機に応じたお話を聞けるといいですね。

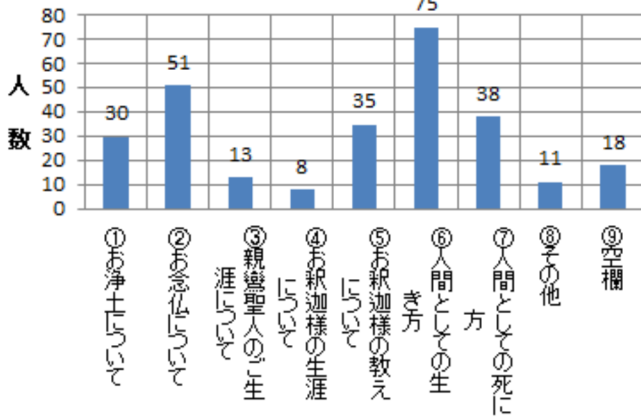


5. 間法会を開くことにしていますが、参加されますか？



「できるだけ参加する」と回答された方が29分いました。回答枚数が209ですから「できるだけ参加する」人が約60人となります。②の「誘われたら参加する」人も30人弱になるかと思います。現在の参加者が大体50~60人程度ですので、まだ、誘いを待っている人がいらっしゃるのかもしれませんが、お互いに誘い合っていきましょう。

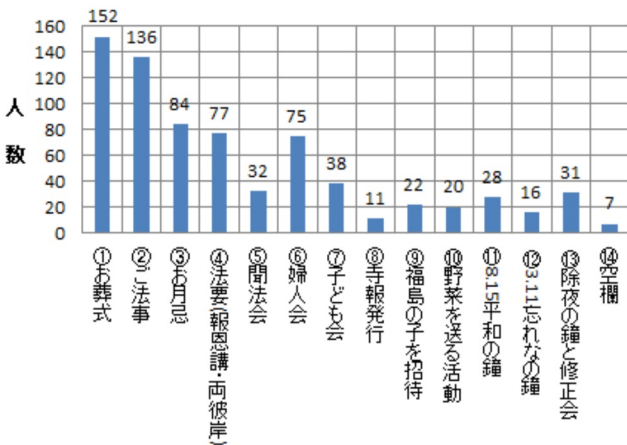
6. 聞法会ではどんな内容のものを望まれますか？



この問は複数回答していただきました。「人間としての生き方」をあげた人が75人おり、一番多くいました。「人間としての死に方」の38人と合わせ、仏教に、生き死にの拠り所（よりどころ）を求められていることを感じます。

「お釈迦さま」（35+8人）「親鸞聖人」（13人）は、生き死にの拠り所として「お念仏について」（51人）「お浄土について」（30人）教えて下さっています。一つに繋がっていくといいですね。

8. 皆さんにとって大切だと思う項目は？

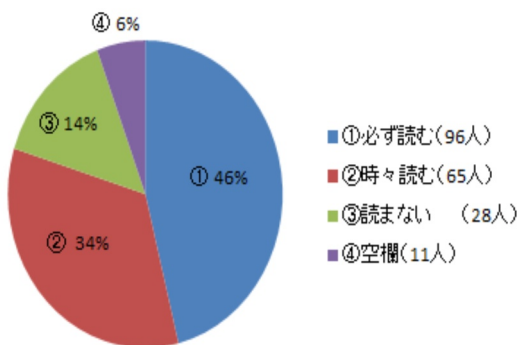


これも複数回答していただきました。ご門徒さんにとって、「お葬式」「ご法事」「お月忌」が大切なのは当然だと思いますが、次に多いのが「法要」となっており、報恩講や彼岸会でのご法話などを楽しみにしている門徒さんの多いことを改めて知らされました。

また、婦人会活動、子ども会活動にも賛同をいただいております。

そのほか、お寺で取り組んでいる様々な活動にも、一定程度のご賛同をいただきました。

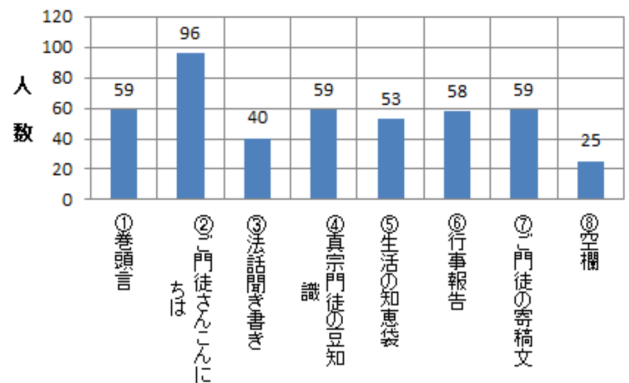
11.(イ)「ひびき」を読まれていますか？



「必ず読む」と「時々読む」を併せると80%の人が読まれており、門徒さんの中に定着してきているようです。

これからも皆さんから愛される紙面づくりをしていきたいと思います。

11.(ロ)どの記事を読まれますか？



これも複数回答していただきました。読まれている記事では、「ご門徒さんこんにちは」が断トツに多く96人でした。「法話聞き書き」が40人と少ないのは、活字ではわかりにくいからでしょうか。あるいは、法要にお参りされなかった方にはあまり読まれていないという事でしょうか。その他の記事はどれも60人弱の人が読まれており、これからも続けていこうと思います。

<記述式の回答>

問9 これからの時代、お寺はどうあったらいいでしょうか。

○ お寺のあり方に関する意見 (12)

- ・存続し続けること
- ・旧き時代の勝福寺であってほしい
- ・旧いしきたりから脱却してほしい
- ・現状維持でよい
- ・できる範囲で活動してほしい
- ・門徒とお寺の信頼関係を第一に
- ・お寺と門徒との結びつきを大切に
- ・良き師であってほしい
- ・特別な人だけの寺にならないように
- ・仏事にお金がかかりすぎないように
- ・年をとりこれからお寺にあまり行けない

○ みんなが集える場であつたらいいという意見 (11)

(楽しい場)

- ・皆が集まる楽しい集いの場
 - ・大勢の人が集まる場所
 - ・ふらっと遊びに行ける所
- (人とのつながりの場)

- ・人と人とのふれあいの場
- ・門徒さんや地域の人々が共に集える開かれたお寺
- ・人と人とのつながりの場
- ・若い人たちや子どもたちが好きになり集えるお寺

○ 寺が心の拠り所であつて欲しいという意見 (5)

- ・心の拠り所
- ・悩める人たちの心の拠り所
- ・心の支えになるお寺
- ・身近に感じられ、気軽に集える精神的側面を持つコミュニティの場

○ 寺が心安らぐ場所であつて欲しいという意見 (4)

- ・老若男女が集った安らぎの場
- ・気軽にご住職や坊守さんとお話しできる場
- ・心が安らぐ話を聞ける場
- ・だれでも安心して行ける所

* 次のような具体的な提案がありました。

- ・毎日曜日の朝の礼拝と法話 (1時間程度)
- ・本堂を椅子式にする

問11. 「ひびき」についての感想は、多岐に渡っていました。

- ・楽しみに読んでいます
- ・お寺のことが良く分かる
- ・ご門徒さんの声が聞けてとても良い
- ・生き方の参考になる、など好意的な感想が多く、今後の励みになります。

今後載せて欲しい企画

- ・門徒の寄稿文
- ・浄土真宗について
- ・仏像について
- ・人間としての死に方、など

編集後記

「門徒さんこんにちは」は堂本光男さんをお訪ねしました。記事の中の四日市南小の壁画を堂本さんが子ども達に指導したのは30年以上前のことです。たまたま南小に勤務していた私はその様子をよく覚えていました。子ども達に何度も学校に見えられて熱心に指導してくれました。その子ども達も現在40歳を過ぎています。その思い出は一生の思い出として残っているでしょうね。

渡辺 重昭

勝福寺では、お寺の活動を目に見える形でお伝えできるように、新たにホームページを作ることにしました。まだ未完成ですが、そのQRコードを左にあげておきます。スマホでかざすとホームページが見えますので是非ご覧ください。

